



慶應義塾大学ビジネス・スクール

タマチ工業株式会社

5

2013年6月、タマチ工業次期社長の米内浄（よないきよし）は、社長就任後の会社の方向性について悩んでいた。

10

タマチ工業の歴史は、日本のモータースポーツの歴史とともにあると言っても過言ではない。特にT1社のモータースポーツ部門が、INDY・CARTなどの様々なカテゴリーを制し、また、エンジンを含め車体全部を自作するフルコンストラクターとしてF-1に参入する（現在は撤退）など、輝かしい実績を残してきた背景には、タマチ工業の技術力があつた。あるT1社関係者に言わせれば、過酷なレースで高品質・高耐久を誇るタマチ製のカムシャフトを「魔法のカム」と呼び、品川区にあるタマチの本社工場を「T1社の秘密基地」と呼んで憚らなかったと言う…。

15

モータースポーツ部門においてこれまで築いてきた技術・信頼は間違いない。ただ、景気等の影響を受けやすいモータースポーツに経営の軸足を置き続けることは、経営上のリスクにもなりかねない。今後もモータースポーツを主力事業とし続けるのか？それとも多角化を進めていくのか？多角化を進めるとしたらどの領域に注力するのか？

20

米内のかじ取りが試される。

25

このケースは、慶應義塾大学ビジネス・スクールの集中企業研究におけるクラス討論の基礎資料として三富正博講師による監修のもとM35の岩間祐樹、横手弘宣を中心とした受講生が作成したものであり、経営上の適切もしくは不適切な状況処理を例示しようとするものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 集中企業研究 M35 受講生（2013年7月作成）

M35 受講生（岩間祐樹、遠藤啓、大澤一博、柴田クマールサンディーブ、杉山暢一、武居倫太郎、新倉理人、平田一久、藤崎恵理子、藤村智之、横手弘宣、若松孝夫、渡辺将吾）